



荒川放水路
通水100周年記念

令和6年5月17日
国土交通省関東地方整備局
荒川下流河川事務所

「旧岩淵水門」の重要文化財指定について

文化審議会（会長 島谷 弘幸（しまたに ひろゆき））は、令和6年5月17日（金）に開催される同審議会において、「旧岩淵水門（東京都北区）」を重要文化財に新規に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

旧岩淵水門（通称「赤水門」）は、大正13年に荒川の増水時に隅田川に流下する流量を調節する「要」の施設として建造されたもので、岩淵水門（通称「青水門」）にその使命を引き継ぐまで約60年にわたり洪水を防ぎ、首都の発展等に寄与してきました。

今年は荒川放水路通水100周年を迎えますが、当該施設は、荒川放水路の通水時に建造された水門・閘門の中で現存する唯一の施設であり、大正期における河川構造物の技術的達成度を示すものとして重要な施設です。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 埼玉県政記者クラブ 都庁記者クラブ 神奈川建設記者会 川口市記者クラブ

<問い合わせ先>

・関東地方整備局 荒川下流河川事務所

電話：03-3902-2311（代表）

メールアドレス：ktr-arage-press@ki.mlit.go.jp

副所長 渡辺 健一（わたなべ けんいち）

保全対策官 秋山 賢（あきやま まさる）



重要文化財 旧岩淵水門の概要

荒川放水路
通水100周年記念

- 1 名称(ふりがな) 旧岩淵水門(きゅういわぶちすいもん)
- 2 員 数 1基
附・岩淵水門工事全圖 48枚
- 3 構造形式 鉄筋コンクリート造水門、延長61.8メートル、左右袖壁及び上流右岸護岸高欄
附属
- 4 建築年代 大正13年(1924年)
- 5 所在地 東京都北区志茂5丁目地先
- 6 所有者の名称及び所在地 国(国土交通省)
東京都千代田区霞が関2丁目1番3号

7 旧岩淵水門の概要

旧岩淵水門は、明治43年(1910年)の東京下町を襲った大水害に鑑み旧内務省が計画した荒川放水路事業の一部として隅田川との分岐点に設けられ、出水時に隅田川への流入量を830m³/s(30,000立方尺)以下に調節し、かつ舟運に支障がないよう建設されたものです。

大正5年(1916年)に国の直轄事業として着工され、同13年(1924年)に完成しました。その構造は、幅9.09mの5門の水門で構成され、内1門は通船門として舟運に支障がないように鋼戸は横取りにより袖壁内部に格納される構造となっていました。

昭和20年(1945年)代後半からの東京東部一帯の広域地盤沈下に伴い、最大約2mに及び沈下等により操作に支障が生じるようになり、その後、周辺の堤防が嵩上げされるとともに、昭和22年(1947年)の高欄の遮水壁化、昭和35年(1960年)の通船門の設置等の改修工事、また数度にわたる門扉の塗装等の変遷を経ながらその役割を果たし、現在の構造・外観に至っています。

昭和48年(1973年)には、荒川水系工事实施基本計画の改訂に伴う計画高水位の見直しによって、水門高さ不足及び安全度の低下が生じ、約300m下流に新しく現在の岩淵水門(昭和49年(1974年)度着工、同57年(1982年)度本体工事概成)が建設され、その役目を終えることとなりました。

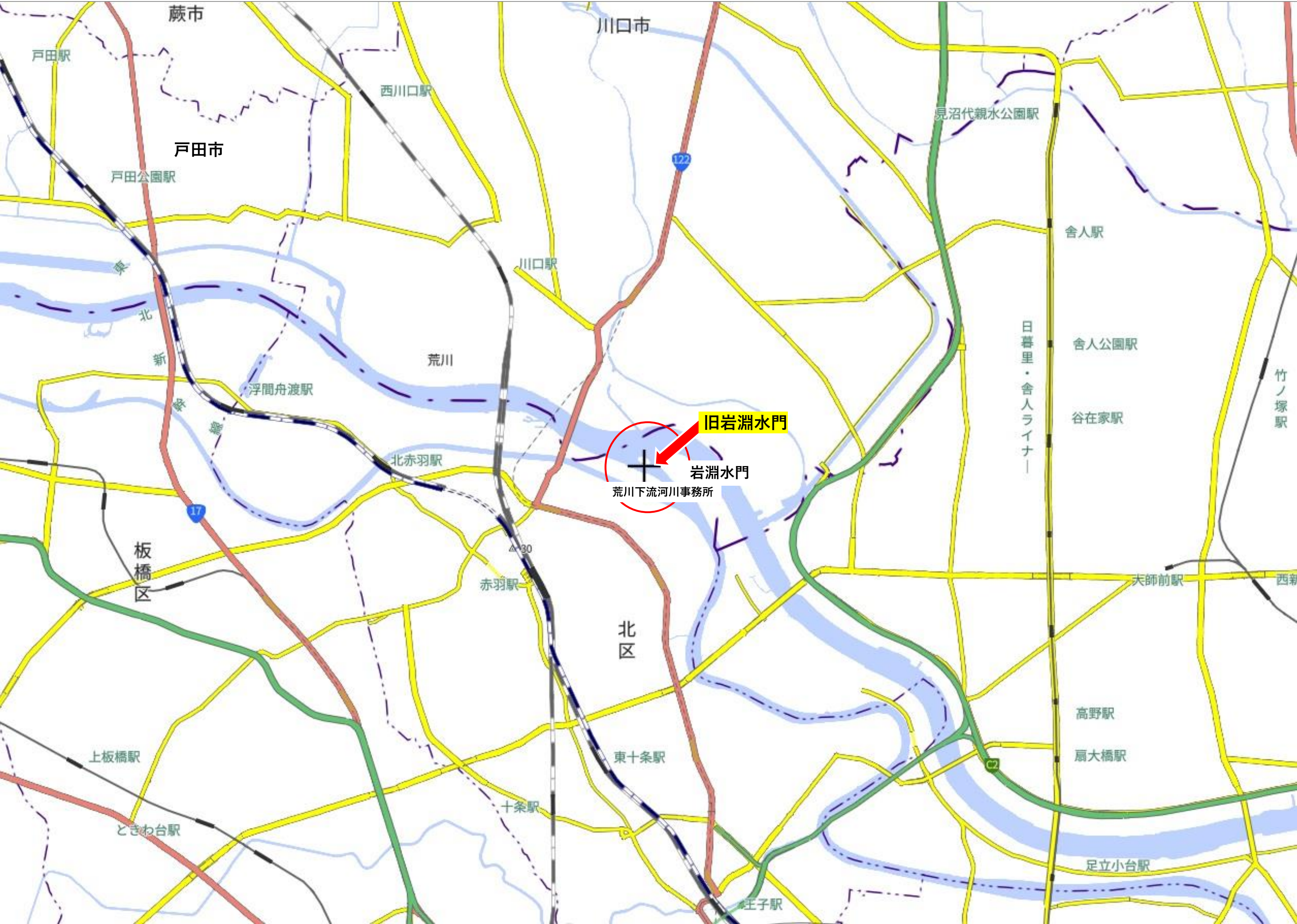
現在は荒川放水路の歴史的な施設として地域に親しまれており、絵画や風景写真撮影のポイントに多く利用されるなど、周辺地域におけるシンボリック役割を果たしています。

また、地元小学校の教科書にも荒川放水路事業とともに記載され、社会科見学コースとなるなど、地域の歴史を学習する上での重要な教材にもなっています。

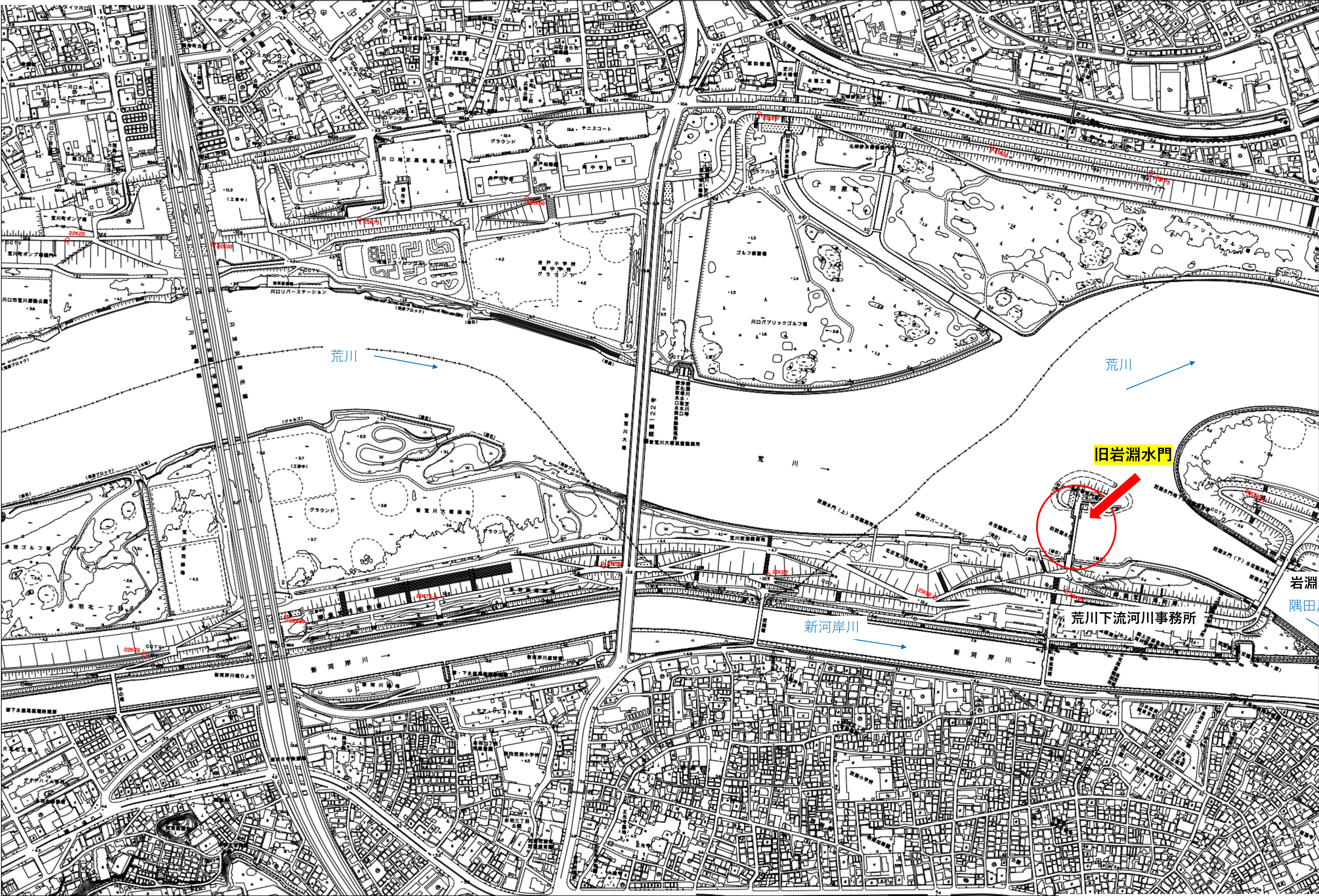
【参考】岩淵水門のパンフレット

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000787857.pdf

旧岩淵水門周辺図（広域）



旧岩淵水門位置図

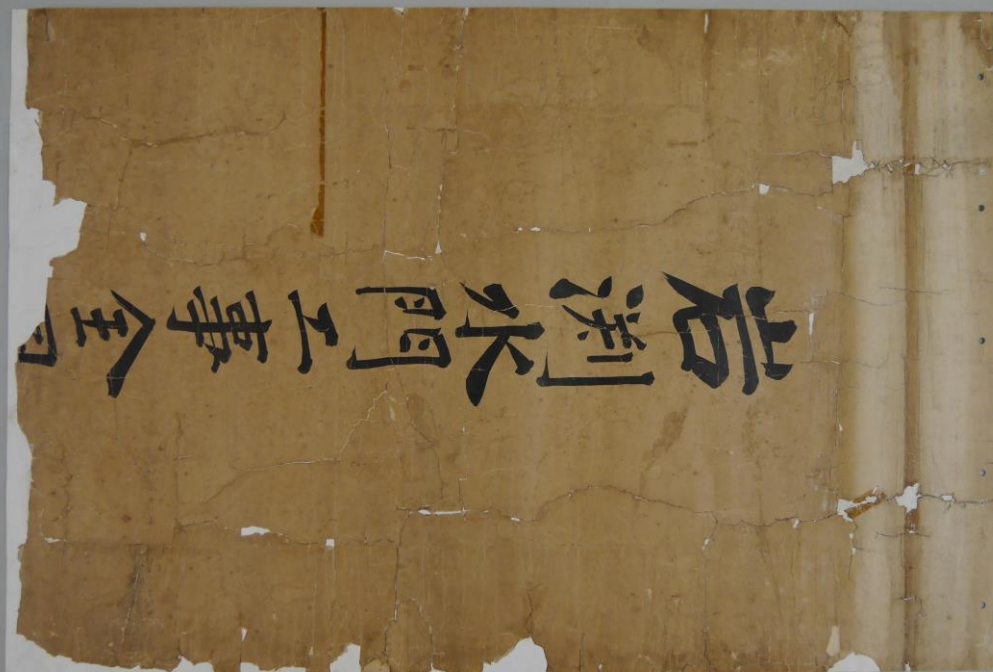




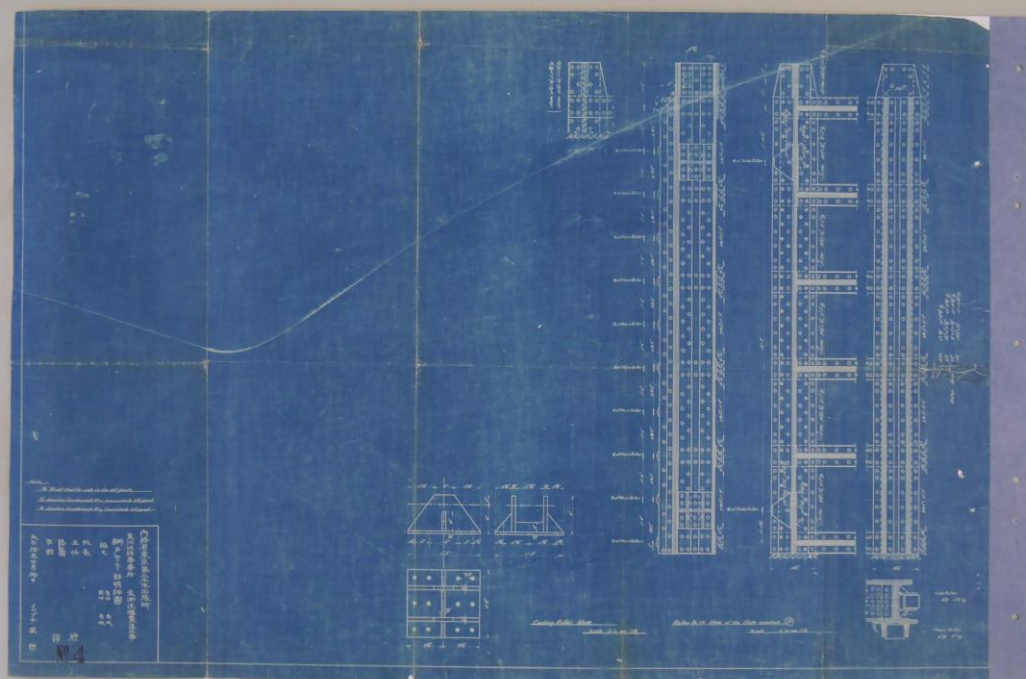
旧岩淵水門・完成直後（大正13年）



旧岩淵水門・現在



附・岩瀨水門工事全圖 48枚



48枚の内の1枚
鋼戸ローラー部明細図（製図年大正10年）